

「だららず」の精神で まちづくり



「喜八プロジェクト」発足の会場で、激励する岡本監督の妻、みね子さん(中央)
=2007年3月19日

無鉄砲だが、自分の信じた道を行く。馬鹿者、あほう、この地方でいう「だららず」だ。そんな米子市出身の故・岡本喜八監督が映画制作に込めた思いを、まちづくりに生かそうと活動しているのが「喜八プロジェクト」だ。

「独立愚連隊」「大誘拐」などの名作で知られる岡本監督。生家は、かつて商店街がにぎわっていた頃の中心だった同市四日市町にあった。

「監督は、活気に満ちたころの米子人気質、だららずを映画で表現しているように思えた。まちを復活したいと思った」。判澤正理事長は、プロジェクト発足の経緯をこう話す。

NPO法人 「喜八プロジェクト」 の事例

代表者のコメント

理事長 判澤正大さん



活動の認知度をもっと上げていきたい。「だららず」という言葉を使っているのは、一人一人の問題として主体的にまちづくりに参加してほしいから。自分が楽しめる何かを始める。その積み重ねでまちは面白くなる、元気になる。「だららず」の精神で動いてほしい。



「DARAZ FM」で情報を発信し続ける判澤理事長(左)

同プロジェクトは2007年6月、同市内のクリエイターなど約30人が集い、スタート。この年に始めた「KIHACHHI祭り」は2010年まで中心商店街を会場に毎年開催し、シンポジウムやアートイベントを展開。監督をデザインした自動販売機も各所で目を引いた。

第2回と第3回の祭りで「DARAZトライアスロン大会」

を企画。腹ばいで台車を進める「スイム」、三輪車でこぐ「バイク」、風船を足にはさんで走る「ラン」が、舞台となった商店街を沸かせた。

2011年以降は、東京のアニメ制作会社「ガイナックス」と協力。「米子映画事変」の企画の環で祭りを継続している。

「人口が少ない圏域では集客がままならないことも多々。一

喜八プロジェクト制作のゆるキャラ「だらざ様」が、「国際マンガサミット鳥取大会」(2012年開催)を盛り上げるため、平井鳥取県知事を表敬訪問=2011年9月21日



方で情報が浅く拡散する。情報をどう発信していけばいいのか。判澤理事長は、仕掛けることの難しさを知った。

現在、日々の情報発信は、コミュニティFM「DARAZ FM」(同市法勝寺町)を中心にすすめる。同プロジェクトが番組編成を担当。「反応が確実なコアな層に向けて情報を発信しながら、地域への愛情をゆっくりに温めていきたい」と判澤理事長は話す。

NPO法人 喜八プロジェクト

〈概要〉 ●所在地:米子市法勝寺町70 DARAZ CREATE BOX内
●代表者:判澤正大
●構成員:理事7人を含む会員計30人
TEL 0859-34-3383 FAX 0859-34-3384
ホームページ <http://www.daraz.org/>

